

国分寺市図書館運営協議会第2期第2回定例会要点記録

日時：平成21年2月5日（木）午前10時から12時

場所：本多公民館 会議室2

欠席：なし

傍聴：なし

会長：本日のテーマは「子ども読書活動推進計画」にかかわる評価である。

事務局：配布資料確認。

会長：本日は協議会終了後、あきる野市立中央図書館の見学を予定している。「子ども読書活動推進計画進行管理表（案）」について皆さんから意見を伺いたい。その前に「子ども読書活動推進計画」のパブリックコメントについて、意見そのものを見たいという要望があり、今日資料として回覧する。

事務局：国分寺市のパブリックコメントで頂戴した意見の公表の仕方について説明。

会長：子ども読書活動推進計画の進行管理表の案は、平成20年度から5年間の計画に沿った活動等について、年度ごとに評価をつけることが求められている。どのように評価をしていくのか、どういう観点で、どういう区分で、どんな形で評価をしていくのか、全体の評価計画を検討したい。

事務局：「子ども読書活動推進計画進行管理表（案）」の説明。

会長：この進行管理表について意見を伺いたい。表の一番左側の「取組の方向」や「具体的な取組」というのは、計画の体系図に沿って書かれている。

委員：これは課題別に取り上げられているが、乳幼児、小学生、中学生、高校生という対象別に取り上げるのも一つの方法かと思う。

委員：計画の体系図をもとにしている部分と、計画の文章に書かれている子どもの発達段階別の取り組みがあるが、年齢別段階別の部分が見えにくい。進行管理表は何のために何を評価するのかがはっきりしていることが必要である。大前提はこの計画の「目標」である。進行管理表の一番上に目標を書いて、これに向かった各項目の評価だということが明らかになるようにしたほうがいい。計画の体系図をもとに「取組の柱」を出し、その次に「取組の方向」を出した表のほうが、評価をするときに評価しやすくなるのではないか。計画の最後の部分の「計画の実現に向けて」も取り組みのひとつになるのだから、図書館協議会で評価の方向を検討していくことも計画の一部だと思うので、そういう評価をする取り組みの欄もつくるようにしたほうがいい。予算措置のこともまた一覧表にしたほうが、年度ごとに充実していく膨らみぐあいが見えてくる。具体的な取り組みの補足になるが、地域資料の充実とか子ども向け図書利用の案内など、細かくなるがそういう項目も項目を立てておいたほうがいいのではないかと思う。

委員：目標設定の目標値が出ているものはわかりやすいが、目標値が出ていないものはどうして目標値を出していないのか。数値化しにくい内容なので数値を出していないのか。目標数値の設定がないと、今度それをどう評価していくかあいまいにならないかと危惧する。何らかの明確な数値設定が必要だと思うがいかがか。

副会長：子どもたちにとってどうだったのかということはどうやって評価できるのか。そのときはわかりにくくても、何か評価するものがあれば、5年間にわたってチェックしていくとその足跡が見えてくるのではないかと思う。子どもたちが、こういう施策をしたことでどう変わってきているかというのは大事なことである。

会長：大変難しいと思うが、数値化できる部分と、できない、しにくい部分をどう見るか。計画全体の効果ということだと思うが。

委員：この表自体が進行管理表になっているので、これはこれで充実させ、評価をするときのまとめとはまた別にあってもいいと思う。評価するときに、すべて数字にできるかといえばできない部分もある。特徴的な取り組みとかを評価の中に入れる場合、数字には置きかえづらいものがある。内容を書き込まないと評価できない評価と、数値にするとか○や△や×でわかりやすくした部分の両方を取り入れて評価していく、そういう積み重ねが、5年間の最終的な到達点が見えるという形になると思う。

委員：数値の実績があるものは項目とし取り上げやすいが、進行管理の設定そのものが目的になってしまう恐れがある。数字としてはかれない要素を入れていかないと、非常に薄っぺらのものになってしまうだろう。数値にできないものは、どのように評価したらいいのか、この協議会で討議しておくことが必要ではないだろうか。

会長：教育であるとか保育とかは、例えばおはなし会を10回やった、あるいは20回やった、だからこうなったという直接的な評価はなかなか難しい。10年ぐらいじっくりやって何か形になるというものも多分にあるだろうし、そのあたりは印象評価も含めたものになってしまうのを得ないだろうと思うが、それでも他方で、やっぱりどこに課題があるかということを探り合いながら、今の計画を練って課題を探るということも、議論をするということが大事だと思う。

事務局：年齢別でというご意見もあったが、この表をつくるに当たっては、子どもたちの読書活動を整えるにはどういうことがあるかと考え、まず環境を整備するためにはどういうことが考えられるか、どういう施策があるか、そういう関連があつての評価である。あと、多分こうしたほうがわかりやすいとか、もっと見やすいとかという点については、表を変えていくことを考えている。目標値があるものとないものがあるが、数字であらわせないものがあり、それが一緒にこの表の中に入っているので多分わかりづらいと思うが、その辺をどう評価するのかということになれば、内容を詳しくお伝えすることしかないのかとは思ふ。

会長：例えば「資料の充実」といった場合は、数としての充実となれば、議論しながら数字を出すこともあるが、評価そのものがやはり質の問題として出てくる。

事務局：数があればいいということではないと思う。冊数だけではなくて、魅力的な書架にできるようにするという内容も入れてはいる。充実というのは冊数だけではないというあたりは、実績のあたりに入れてもいいかと思う。

委員：パブリックコメントが配付されているが、この辺が結構全体的な印象のように感じる。個々の項目別の目標およびその評価というものが大事だが、全体の評価、全体をどう評価するか、数値目標としての全体評価、あるいは数値目標以外の印象評価、全体の印象、それが最も重要な気がする。

会長：総括的な評価が必要ということだろう

委員：計画進行管理表（案）の1ページに「資料の充実」とあり、「障害のある子どもたちに向けての資料の充実」というのがある。20年度、その「課題事項」に「障害児関係機関や市内小中学校の特別支援学級等にPRを行う」とある。利用者が少ないのでPRをすることによって少しは成果が出るのではないかという意味合いか。

事務局：そうです。

委員：実態はどうか。

事務局：障害のある方へのサービスとしてテープや点字本をそろえてきたが、現在子どもの登録者はいない

委員：本の読み聞かせなどを行っているが、障害者児童が参加しているか。

事務局：いない。何らかの障害を持ち、ご家族と一緒に車いすで来館し借りていくお子さんはいる。

委員：図書館に出向いてとか図書館で資料を借りてという範疇か。

事務局：そうです。障害のある子どもへのサービスとなると、つくしんぼの子どもたちに団体貸出用セットの団体貸出のサービスは利用されている。五小の特別支援学級などは以前から団体貸出として紙芝居などを利用している。

副会長：市民グループがおはなしの出前で行っているが、重度の障害の方が普通の児童と一緒にお話を聞いたりしている場面はある。

委員：一小のさくら学級にも地域のおはなし会の方が行っておはなし会をしている。

副会長：図書館を通じて行うというのではなく、市民グループ対学校で行っているのも、そういうのは他からは見えにくい。

会長：図書館が責任を持って実施する施策と、教育委員会の指導部門が主として担当するものがあると思う。この表全体を見ると、学校の担当が行う可能性が高いと思う項目もあるが、そのあたりの連携はどうなるのか。指導課の担当者に説明をしていただくような機会を設けるとか工夫できたらいいと思う。そすればもっと実態が把握されるかもしれない。

副会長：今、話題にしたことは、学校が独自に市民グループに依頼をして行っているのも、指導課でもわからないのではないか。

委員：図書館ができることはきちんとまとめられているが、学校のところが全部抜けてい

と思う。学校こそ、子どもたちの多くが通っている場所での取り組みで、5年間でどう変わっていったかを知りたい。例えば狛江市では、誰が司書になっても指導計画があり、教科書を使って何年生にはこの本が要るとというのが表になっているので、子どもが転校しても全く遜色ない図書館教育が受けられるように、市全体で指導計画の冊子をつくってまとめていると教育フォーラムで報告であった。そういうものがあれば、子どもたちはどこにいても本を探し出し、勉強にも本が使われる。もう少し教育委員会との連携で何ができるのかということが入らないと、学校教育の実態や図書館との関連がわからない。図書館員が学校に何回行ったということは細かく書いてあるが、市民グループがどれだけ動いていて、この推進計画が進むにつれていろんな学校に普及し、例えば年間何回ぐらい行っているというような、そういう希望だってここに本当は上がってくるのが当然ではないかと思うが。

委員：いろいろな仕事の中には数字になじまないものがある。目標のときに一番わかりやすいのは数字であるが、数字に全てがなじむものではない。文章を入れて目標にし、数字になじむものはできるだけ数字を入れる。数字のなじまないものを、無理やり数字にするとこれはでたらめ数字になってしまうおそれもあるので、むしろ言葉で目標を設定し、数字になじむものはできるだけ数字を入れるという形に切りかえたほうが良いと思う。図書館行政の中では蔵書の数だとか、それから会合の回数云々というのは数字になり得るから、それはできるだけ数字を挙げてもらいたいが、なじまない分野のほうがむしろウェイトが高い。中身の充実も当然あるわけで、そういう面で少し視点を変えてみたらいかか。

委員：4ページの「団体貸出の運搬の検討」というところは斜線になっているが、これは全くこの5年間は考えないということか。

事務局：19年度、20年度の中では、その検討がまだされていなかったのだから斜線を入れたが、この施策については21年度から検討するという意味である。

会長：高校生の職場体験も23年度に検討と、計画ではなっている。

委員：数字の入っているところは今年度予算があるから、数字が書きやすいということか。図書館が主導権を握れない項目はやっぱり空欄になりやすいと思う。ホームページのところはまだほとんど書き込まれていないが、例えば課題事項をあげれば、数値化できないところも、課題の項目を文章化すれば後でチェックしやすい。

委員：数値にできないところは細かく文章化し、それを達成したというようにしていくのでいいのではないか。

副会長：「具体的な取組」が今年度の目標とか具体的な目標になり得ていないので、21年度に向け目標という形で文章化したらいいのではないかと思う。

委員：表は表でいい。表の後に付表みたいなものをつけるとか。これに書き込まなくても別表を見ればいような感じでできないか。表は見やすいからこのままでいい。

委員：「具体的な取組」の欄のところに、可能な限り担当部署の記入があるといい。主に

その担当する部署はここだと書くことが親切だと思う。まだ具体的に詰められていないところが空欄だと思うが、これから進むに従って実績欄がずっと膨らんでいき、例えば「図書館資料の充実」というだけで1ページが終わってしまうということもあるのかもしれないが、実は数に出てこない司書のフロアワークとか書きにくく表現しにくいことが大事だと思う。そのあたりを実績に書き込めればいいのかと思う。この表自体の構成がどこから来たか、「具体的な取組」とは計画の何ページのどこから来ているというあたりが関係づけがあればいいと思う。

委員：結果を評価していくということなので、それぞれの項目や課題の内容を、だれが責任持って担当して進めていくのかということも明示しておく必要がある。そうしないと、結果が出たときにフィードバックできていかない。

会長：計画のなかには担当部署が入っている。ただ、一覧表の中で同時に見えるかどうかということだと思う。

委員：推進計画の23ページに、計画の進行管理については協議会の協力を得ながら行っていくと書いてあるが、実際に進行管理の表を管理しながら指示を出す主体はどこか。これは図書館でやるのか、あるいは委員会をつくるのか。協力するのはもちろんやぶさかではないが、管理主体としてどこかで補う必要あるのでは。

事務局：教育委員会では、図書館がこの計画の進行の管理の主体と位置づけられており、図書館もそのように受けとめている。図書館以外のところが主として取り組んでいくような、特に学校であるとか学校図書館であるとか保育園とかというようなところについては、図書館のほうで各課との連携会議を設けて、そこでお互いの事業の確認等を行っていく。学校15校で取り組んできて、今いろいろ読書活動も盛んになってきている。指導課のほうでもそのすべてを完全に把握できているかということ、学校独自にやっているものが非常に多くあるので、そこまですべて完全に把握できていない。そうした内容については、年に何回か行っている学校図書館の担当者とか司書教諭の先生との連絡会や学校だよりなどで情報収集している。

委員：わかりやすさも大事だと思う。進行管理表は基本これでいいと思う。

会長：実績の部分でも、数量的な部分は目標値で見ることができる。ある程度質的な部分も実績の中に入れることができる。課題事項は、単に数字達成ではなく、どういう具体的な問題があるのかということをはっきりと明らかなにしていけると思う。課題事項をこの進行管理表に入れたのは大変大事なことだと思っている。そこに先ほど言った質的評価みたいなものを組み込める。

事務局：評価という欄は20年度のところにあるが、19年度の実績がわからなければ20年度の評価はできないわけで、19年度の実績も載せさせている。数値化については、どういう尺度で評価する尺度を設定したらいいのかが難しい。評価をこの中に書き入れるとしたら、どういう言葉になるのか、どういう表現がいいのか、市民の視点から見たときの評価ということもある。その辺は図書館としても悩んでいる。

委員：5年間の目標値を設定するとき、オール数値にしないで、目標も評価も文章で長々としてしまうとだれも意味がわからなくなってしまう。箇条書きに、ここまでできたがこれはだめだったとか、来年できる予定というような指標を入れるだけでも、努力実績自体は上がってくるし、目標にもなってくると思う。そういう形で、数字だけでなく、できるだけ数字、それから目標も評価もできるだけわかりやすい箇条書きの言葉を入れることにより、評価の段階で実績自体は評価ができる。

委員：評価は、逆に数値設定すべきだと思う。せめて5段階評価が一番わかりやすいと思う。どこまでやったのかという基準をその5段階の中で設定していくほうが見やすいのではないか。

委員：まず連携については、実際この計画の体系図でいくと3番の協働と連携を深めていくという項目のところになると思う。進行管理表でいえば3ページから4ページにかけて、書き込めなかったことがいっぱいあると思う。他部署や他の市民団体との連携という欄をつくり、ここの体系図そのものには入っていないが、でも大事なことは書き込んでいくという方法もあると思う。そのことと関連して、ここに全部入れ切れなかったものも、計画に書いていないからだめだということにはならない。いろいろな課題を考えていくうちに、こういうことも必要だということは当然出てくるし、これ自体が見直しをしていく計画だから、随時柔軟に管理表をつくっていくことが大事だと思う。今課題として出された評価の仕方の欄であるが、1つはこの実績の部分データを独立させたほうがいいと思う。それか、数字だけで見られる部分はデータだけはそこに独立させて、データの部分と課題という形に分けると、その課題の意味がはっきりするのかと思う。20年度は19年度から比べてこんなことが前進したというのも、データの隣に箇条書きに入れて、その隣に次年度に引き継ぎたい課題とを書き込むのも一つの手かと思った。

委員：3ページの「学校図書館の充実」というところで、「読書センター・学習センターとしての機能の充実」「学校図書館の地域開放」というところは、いつどこで、どなたと相談してここをきちんと行っていくのかは計画の中にあるのか。各15校の司書教諭や学校図書担当の方と話し合っていて決めていくことかと思うが、学校関係のことを、現場の方と細かく打ち合わせていかないと5年間苦しんでしまうと思う。

事務局：この表は12月から1月にかけて作成した。1月に、学校図書館との連絡会議を2回行っている。そこでの内容はまだ反映できていない。21年度は学校図書館への司書の全校配置を提案したいと教育委員会では検討しており、中学校のほうも日数を増やすように考えている。この子ども読書活動推進計画の中で指摘がされているところが根拠になっている。

副会長：連携について、公民館との連携をしてほしいという意見を出し要望した。公民館については小学生のところでは取り上げられているが、中学生、高校生の読書習慣、読書への取り組みの支援は、図書館だけでは無理ではないかと思う。せつかく公民

館と併設しており、公民館が地域の子どもたちを把握している部分もある。公民館と共同で、22ページにある「高校生等による読書情報発信の支援」とか「ブックリストの作成」とかを行えば、子どもたちを引きつけられるものができるのではないかと思う。計画にないと、もうこの5年間は事業ができないのか。

事務局：この評価等の中で、こういう事業も必要ではないかということでご意見をいただいでいくことによって、そこは変えていくという前提で考えている。

事務局：課題というかたちで、ここの協議会で取り組んでいくべきだということであれば、それが評価の対象に次からはなっていくということとご理解いただきたい。

委員：この推進計画は5年間のものなので、課題はまだある。

事務局：公民館との連携は、計画の23ページの「地域における読書活動の取組み」の中に、併設となっている公民館や児童館ということであげている。今の時点では具体的にはないが、今後は連携していけるものがあれば入れていく。

委員：22ページにある担当部署というのは責任を持つ担当部署が図書館というふうに理解すればいいということでしょうか。

委員：評価のことだが、○△×で評価の欄に1個印をつけるというのもなかなか難しい。特に実績の文章と評価の文章の表現をどう違えるかとか。評価があつて、○×がついたから、課題事項がこうだという表現になるのかもしれないが、例えば実績の「資料の充実」のところ、新刊書や複本の購入をした、魅力的な書架になったということがあるが、この辺は実績と評価がちょっと混在していると思うので分けたほうがいい。実績と評価も、○×にするのではなくて、文章にしてしまい、こういうふうには実績はしたがその評価はどうだったのかというあたりも文章化するというのも手かと思う。あえて全体の判断はしない。そうやって課題事項をはっきりさせたほうがいいのかと思う。最終的にどうなるのかは、要するに最終の目標、子どもたちが本を読むようになるというあたりとどう結びついていくのかという評価だと思うので、余り数にとらわれてしまうと数を判断する作業のほうにきゅうきゅうとして、肝心の作業がいかないかという気もする。○△×で、あるいは逆に数値を細かくして評価していくというのも余り賛成はできない。

会長：逆に、ある種わかりやすさがないと、何となくぼんやりと玉虫色になってしまう。基本的には達成できたというものの、課題はそこでもあり得ることだ。数値は達成したが、中身はというようなこともあるので、例えば数値についていえば、できたのかできないのか、そのあたりは明確になるのではないかという気はする。

委員：そうだと思う。ただ、新刊書をどのくらい買って、書架の割合でどのくらいになったのかとかいうような目標まで設定してしまうと大変だと思う。

委員：この中にはできていないが、今、国分寺市と他の市とで相互乗り入れを行っているが小平市が抜けている。例えば資料の充実ということで資料の充実そのものには当たらないまでも、小平市の図書館が利用できる、小平市のいろんな図書館がす

るイベントに参加できるというチャンスが増えれば、利用者にとっては充実に値するのではないかと思う。そうしたことで、小平市あるいは周辺でまだ漏れているところがあれば、国分寺市だけで実施するのではなくて、そこの相互乗り入れの提携を進めていけば、全部とは言わないが半分の蔵書数がふえたぐらいの値打ちがでてくるのではないかと思う。いろんな事情があると思うが、いかがか。

事務局：現在、国分寺市は国立市府中市と相互利用をしている。もとまち図書館が府中市境にあることや、国立市の図書館が道路1本で国分寺市と隣接しているようなこともある。やはり子どもたちはあまり遠くには行かない。近くにある図書館であれば、そこが国分寺市の図書館であろうと府中市の図書館であろうと国立市の図書館であろうと、身近にあるところで利用したということだと思う。相互利用については、お互いの市同士で検討課題にはしているが、双方の市の都合があり実現していない。国分寺駅を利用している方も多く通り道になっているため、現在の本多図書館の人員体制の中で、国分寺市民に対するサービスを維持していけるかどうか大きな課題にもなっていく。その点がある程度見通しが立たないと、なかなか具体的な話として踏み切ることができず、今悩んでいる。

会長：子ども読書活動推進計画の進行管理についてはこれでよろしいか。

事務局：進行管理表についての提案でいろいろ意見いただいたが、一番大きなところは評価のところだと思う。○△×というご意見、5段階がいいのではないかというご意見か、数値化だけではなく文章でというご意見と頂戴したが、どちらにまとめたいのか。

会長：メリット、デメリットそれぞれあると思う。数値化できないものは文章化で評価する部分もでてくる。数値化できるものは、○△×なのか5段階なのか。5段階でも、その尺度はもう一回検討する必要がある。どのような方法が、図書館の活動なり実態を反映し得るのかということ検討していただかなければならないだろうと思う。

事務局：総合的な見方という点では、これは表の割り方で、それぞれの具体的な取り組みごとにその評価ができるような形になっている。もう少し大枠での評価ということも検討してみたが、それぞれの取り組みの個別事業がどうなのかというところに話が戻ってしまう。

委員：やはり評価内容のレベルが、文章で書く場合、割合と達成しやすい内容とか、相当努力しなくてはいけない内容とかあり、3段階ぐらいだと少ないのではないかと思う。内容によっては、5段階ぐらいの評価をしていくのが案としていいのではないかと感じた。2年先、3年先、5年先につなげていく意味でも、少し幅のある評価をしていくほうが、評価基準としていいのではないか思った。

委員：合格か不合格かが一番大事だと思う。○で合格、不合格の場合にはっきり不合格とすることが大事。△がたくさん出てくることが予想されるので、課題事項と連携させることが必要ではないかと思う。

委員：数字の評価のところは単純にわかったほうがいいので、それを補足する文章の部分だと思う。これは施策別に結構でているので、数字で評価できる部分については○△×か、○か×か、単純評価にして、全体の取り組みの柱の部分や個別の課題は、これはできた、これはできなかった、全体としてどこまで進んだというところは入ったほうがいいと思う。「国分寺市児童育成計画」は基本目標に沿った達成度がこのくらいまでできたとある。市民が見てもある程度わかりやすいもののほうがいい。細かいものもだして詳細を調べたい人に見てもらえるように、わかりやすいものがあると思う。多摩市の子ども読書活動推進計画で、全体の目標に対して文章があり、1つの項目について1つ、データで出せる分は一覧がついていた。評価するときにはそういう方法を取り入れることもできるのかなという気がする。

事務局：今日いただいたご意見をどこまで反映できるか、具体的にになると難しい面もあるかとも思うが、検討してみる。この表自体、別に固める必要はないし、やっていく中でこういうほうが見やすいのではないかとすることがあれば、その時点で変えていくということもあっていいと思っている。

会長：協議事項は以上で終了する。次に報告事項をお願いする。

事務局：利用者懇談会、ご意見箱にいただいたご意見の報告。

事務局：平成21年度予算を市議会で検討していただく。図書館の蔵書管理にICタグの貼付を5年ぐらいかけて行うことを考えている。図書館の利用時間の拡大ということで、30分開館時間を早め9時30分開館を4月1日から実施したいと考えている。カラーコピー機を本多図書館に設置してもらいたいと要望している。子ども読書活動推進計画にかかわることで、団体貸出用の資料費を今年度と同様の金額で要望していく。また、「多摩・島しょ子ども体験塾助成金」というものがあるので、この助成を使って、子ども自身が絵本づくりや紙芝居づくりに参加してみるというような企画を考えている。修繕としては、恋ヶ窪図書館と光図書館とともまち図書館で耐震工事費を計上する。本多図書館は空調機の全面改修を予定している。

委員：ICタグをつけるメリットは何か。

事務局：蔵書管理を厳密に行えるということ。自動貸出機の導入や蔵書点検が短時間で済むようになるというようにスピード化、能率化が図れるというメリットがある。

委員：新たな機械がまた別に必要になるのか。

事務局：本にICタグ、アンテナ付きのチップを張るということと、それを読み取る、入力するための読み取り機械が必要になる。

会長：パブリックコメントのご意見は時間なくて目が通せたかどうか分からないが、意見があれば。

委員：パブリックコメントをもうちょっと知りたいと思ったときに、12月15日号の市報に表が載っていた。周りでパブリックコメントの意見を出したという話を聞いたのだが、泉町地域に図書館を設置してほしいという意見が「同様意見ほか7件」となっ

ていたり、お話し会にもう少し図書館がかかわってほしいという意見も知人が出したはずなのにでていない。文章全部が公表なのかと思っていたが、49件の意見をまとめた表からは、市民一人一人の声は伝わってこなかった。だから、パブリックコメントそのものを私は見せていただきたいお願いしたわけである。この図書館協議会の2時間の間だけでは熟読は不可能だったが、「ほか7件」と書いてある意見が多くを占めていることがよくわかった。図書館としてはパブリックコメントを市民に求めたということも、まとめられたことも、公表されたことも初めてと聞いた。本当に大変な作業でご苦労も多かったと思うし、市民に意見を求めてくださったことには感謝する。しかし、こういう細やかな市民の声が聞けてこそ、生きてくるものではないか。他市では全文を公開して見られるようになっているところもあるそうだ。図書館というのはそういう細やかな、一人一人の気持ちを反映して成り立っていくものだと思うので、概要ではなく全文が市民の目に触れるようにしていただけるといろいろな思いが伝わり、結果的には図書館の今後の発展につながると思う。今後こういうことがあったときにはご検討いただければうれしい。

事務局：ご意見は担当のほうに伝えます。パブリックコメントという制度は市の制度で、そこでのやり方があり、今回図書館としては市のパターンに沿って行ったことをご理解いただければと思う。

委員：「こくぶんじの学校教育」と「五小だより」をお配りいただいた。「五小だより」に「読書活動推進モデル校として発表しました！」という記事があり、1月7日にモデル校になった3校が四小に集まって教員全体を対象にモデル校でどんな取り組みを行ったか発表している。ここには五小の取り組みしか書いていないが、発表された内容や三小や四小がどんな発表したのか知りたいところだ。「こくぶんじの学校教育」には、学校図書館の記事がたくさん載っており、いろいろご意見いただいたりして少しずつ進んだ結果だと思う。

事務局：今年度8月に第1期図書館運営協議会が教育委員会の諮問に答えた答申を頂戴している。今まで、教育委員会として図書館の基本的な考え方をを出していなかったの、いただいた答申の基本的な考え方や方向を教育委員会の方針として確定していきたいと考えている。今月末の教育委員会の定例会に、中央図書館の必要性であるとか、西国分寺地区への図書館サービスの拡充であるとか、駅前の図書館のコンセプトであるとかを盛り込んだものを、教育委員会の方針として議案として出す準備を進めている。

事務局：多摩地域図書館大会のご案内、各館事業の報告。

会長：以上で本日は閉会する。次回は5月21日木曜日、午前10時から行う。